

成果の説明書

(氏名) 佐藤英人	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>○教育上の成果に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none">・本年度は、演習I、演習II、基礎演習、地理学、現代の都市問題、都市地理学、地域政策学入門、地域政策を学ぶ（リレー講義）、高崎市の課題と政策（リレー講義）、都市地理学特論（大学院）、都市地理学特論演習（大学院）、地域活性化特論（大学院・リレー講義）を担当した。学生が予習できるように、レジュメ等を Microsoft 社 teams で事前配布した。授業ではパワーポイントを用いて、イメージしやすい授業運営を心がけた。加えて、学生との対話を大切にし、積極的な問いかけをおこなった。なお、対面での質疑応答が困難な場合は、メールや掲示板等を用いて返答するようにした。その結果、「授業に関する学生アンケート（前期）」では、地理学（履修者 65 名）の総合評価が 90.2 点となり、大学全体の平均点（78.7 点）を大きく上回った。特に教員の話し方と授業時間の定常性の項目で高い評価を得た。・基礎演習（2 年生）では、ゼミ生の興味関心に基づき、リチャード・フロリダ（2014）『新クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主演となる—』ダイヤモンド社、488p を輪読し、クリエイティブクラスのあり方などを議論した。・演習I（3 年生）では、卒業論文執筆に向けたトレーニングとして簡易 GIS ソフト「MANDARA」の操作と Excel による地域分析に関する実習をおこなった。なお、グループ研究で取り組んだ「新型コロナウイルス感染拡大に伴う中心市街地の変化—高崎市の業務機能に着目して—」が、日本地域政策学会 第 20 回全国研究【熊本】大会の学生ポスターセッションで審査委員特別賞を受賞した。・演習II（4 年生）は、卒論指導が中心となる。就職活動等で多忙の中、適宜、ドラフト原稿の添削指導をおこなった。卒論の中間発表の場として、早稲田大学教育学部社会科学地理歴史専修との合同ゼミ（2021 年 8 月 30 日：遠隔開催）と本学岩崎忠ゼミとの合同ゼミ（2021 年 9 月 24 日・10 月 8 日）を企画した。2 年生と 3 年生が聴講者となって卒論生に報告を求めた。その結果、卒論生 12 名が全員無事に卒論を提出した。・早稲田大学教育学部には、非常勤講師として遠隔で出講し、都市地理学、地誌学研究、地理学演習I（3 年生）、地理学演習II（4 年生・卒論指導を含む）を担当した。・大学院地域政策研究科 都市地理学特論演習では、吉田明弘氏の修士論文「立地適正化計画における居住誘導区域外への自治体対応関す研究—埼玉県・群馬の 27 自治体を事例として—」を指導し、修士号の取得に関与した。 <p>○研究上の成果に関する事項</p> <p>1) 論文・著書</p> <ul style="list-style-type: none">・佐藤英人「中国経済の現況と日系企業の活動状況」（高崎経済大学地域科学研究所編『地方製造業の躍進—高崎発ものづくりのグローバル展開—』日本経済評論社），2022，pp21-30 <p>2) その他の著作物</p> <ul style="list-style-type: none">・佐藤英人「あすなる市民ゼミ報告『日本の人口減少・少子高齢化社会を考える』」高崎経済大学地域科学研究所ニューズレター，2022（印刷中）・佐藤英人「はしがき」（佐藤英人ゼミナール編『卒業論文集』）Vol. 6，p1，2022・佐藤英人「中牧崇先生を悼む」（中牧崇先生を追悼する会編『中牧崇の地理学・地理教育研究—主要研究と思い出—』），2021，p219	

3) 学会発表・講演会等

- ・佐藤英人「人口減少・少子高齢化社会を考える」, 第 38 回 (2021 年度) 高崎経済大学公開講座「現代社会への多面的アプローチ」, 2021 年 12 月 1 日
- ・佐藤英人「日本の人口減少・少子高齢化社会を考える」, 高崎経済大学地域科学研究所あすなろ市民ゼミ, 2021 年 9 月 21 日
- ・佐藤英人「地方を元気にする地域づくりを考えてみよう!」高崎経済大学令和 3 年度 Web オープンキャンパス, 2021 年 7 月 18 日, 8 月 1 日~31 日
- ・佐藤英人「郷土を知ろう (群馬の地理と歴史)」, 令和 3 年度教員免許状更新講習, 2021 年 8 月 18 日
- ・佐藤英人「戸建住宅取得者の若年化とその背景—高崎市の郊外住宅地を手がかりに—」, 日本地域政策学会 第 20 回全国研究【熊本】大会, 2021 年 6 月 20 日

4) 情報提供・その他

- ・株式会社 住環境研究所との情報交換会
- ・群馬地理学会 2021 年度野外巡検「高崎中心市街地の変遷」での話題提供, 2021 年 10 月 16 日

○職務上の成果に関する事項

1) 学外業務

- ・群馬地理学会 理事 庶務委員会 委員長 (2021 年 10 月—現在)
- ・日本地域政策学会 理事 事務局次長 (2020 年 6 月—現在)
- ・東京地学協会 編集委員会 委員 (2019 年 4 月—現在)
- ・その他, 関東都市学会の査読審査委員等

2) 学内業務

- ・地域政策学部 教務委員会 委員長 (2021 年 4 月—現在)
- ・全学人事委員会 委員 (2021 年 4 月—2022 年 3 月 31 日)
- ・地域政策学部 業績審査委員会 委員長 (2021 年 4 月—2022 年 3 月 31 日)
- ・地域政策研究科 修士論文審査委員会 主査・副査 (2017 年 4 月—現在)
- ・地域科学研究所 所員 (2014 年 5 月—現在)
 - 「地方都市中心市街地研究」メンバー (2019 年 4 月—現在)
 - 「日本における「持続可能な地域」実現の展望と課題—ガバナンスと域内経済循環の観点を中心に—」メンバー (2021 年 4 月—現在)

2 その他の事項

- ・特になし.

3 次年度以降の計画・抱負

- ・教育上の計画としては, 授業改善を継続し, 教員—学生間, 学生間の双方向教育 (集団討論を用いた自発的な学びの醸成) を実践していきたい.
- ・研究上の計画としては, 下記の研究に取り組んでいく予定である.
日本における「持続可能な地域」実現に関する研究 (地科研 P), 地方都市における中心市街地に関する研究 (地科研 P), 東京一極集中の是正に向けた多拠点居住の可能性に関する研究 (科研費・個人研究), 人口減少・少子高齢化社会における持続可能な住宅地に関する研究 (科研費・共同研究), 中古戸建住宅の取得者属性に関する研究 (共同研究), 不動産競売の地理的偏在に関する研究 (共同研究)